

歯科法医学特論（山田良広）

Advanced Course of Forensic Dentistry (Yoshihiro Yamada)

キーワード

- ① 歯科法医学
- ② 法医学
- ③ 身元確認
- ④ 遺伝標識と年齢推定
- ⑤ 医事法制

授業概要

歯科法医学の定義、特に法医学と歯科法医学の違いについて理解したうえで、死体現象や死因論の知識が歯科法医学にいかにかに大切かを理解する。講義各論は個人識別に関する検査方法を中心に行う。つまり、歯による身元特定・遺伝標識・スーパーインポーズ法・複顔法そしてモンタージュ写真である。さらに、歯科医師として必要な知識である法医学については、死の判定・死体現象・死因論そして物体検査である。医事法制については、インプラント治療事故・麻酔事故等医療事故をメインとして事例を解説する。

授業科目の学修目標

歯科医師に必要な歯科法医学と法医学の知識を修得する。歯科法医学としては、身元確認の方法と遺伝標識（主にDNA）さらに歯からの年齢推定法を、法医学としては、死の判定と死体現象さらに死因論を修得する。医事法制では医療過誤を中心に症例を検討し歯科医師にとって医事法制の知識の重要性について認識する。

授業計画

- ① 歯科法医学と法医学を解説する。 18コマ 山田良広 2コマ 長谷川巖
- ② 身元確認の方法と遺伝標識さらに年齢推定を解説する。 5コマ 山田良広
- ③ 医事法制を解説する。 5コマ 山田良広

教科書および参考書

1. 法歯科医学、高橋雅典監修・山田良広他編、永末書店
2. エッセンシャル法医学（第6版）、高取健彦編、医歯薬出版

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

学部での教科の復習。生化学特にDNAの復習。遺体を扱う科目であるため、遺体への尊厳を忘れないこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科法医学と法医学を理解し、それぞれの特徴について説明できる。
- ② 身元特定および年齢推定の意義を理解し、歯科的身元特定法と歯からの年齢推定法を実行できる。
- ③ 遺伝標識を理解し、特にDNA鑑定の方法と鑑定および倫理について理解し、説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	30%	30%	0%	0%	0%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回40%
- ・小テストは、授業項目の3項目について課題を提出する。10%×3回=30%
- ・レポートは、授業項目の3項目について課題を提出する。10%×3回=30%

理想的な達成レベルの目安

達成レベルは80%以上とする。特に、身元特定の理解に関しては100%を求め、災害コーディネーターの役割ができることを目標とする。